

# 「現場事故0」をめざし、工事担当者の安全意識の向上！

～「静岡営繕事務所工事安全連絡会議」を開催～

平成24年8月29日  
静岡営繕事務所

静岡営繕事務所では、事務所担当工事の「現場事故0」を目指し、現場における安全確保や工事担当者の安全意識の向上を図るため、8月29日(水)に「静岡営繕事務所工事安全連絡会議」を、現在施工中の工事受注者9社、20名、監理業務受注者5社、7名および職員の計35名の参加で開催しました。

会議では、静岡労働局の鈴木主任地方産業安全専門官から、県内の労働災害で建設業における事故が昨年を上回っているの現状や、施工における留意点、リスクマネジメントの重要性について説明をしていただきました。その後、事務所より「地下埋設物・躯体埋込み配管の事項防止マニュアル」や、「営繕工事における最近の事故・施工不良例」について説明しました。

また、警察学校本館建築工事を受注している鴻池組、監理業務を受注者のOS設計より、それぞれの立場から見た「安全対策」の考え方や、鴻池組が取り組んでいる「安全対策」の具体的な事例について、紹介してもらいました。

説明後の「意見交換」では、他の工事受注者から安全に対する取り組みの紹介や、今回初めて監理業務を受注した設計事務所からは「非常に参考になった。」との意見がだされ、工事関係者の「安全意識の向上」を図る事ができました。



国交省静岡営繕  
労災ゼロ目指し  
安全連絡協議会

国土交通省静岡営繕事務所は8月29日、静岡市内で工事安全連絡協議会

あいさつする北原所長

を開いた。同事務所発注の工事施工者ら約40人が参加し、労働災害の実情や現場の安全対策、留意事項について説明を受けた。

あいさつに立った北原浩行所長は、「安全にやらずにはない。それぞれの現場で、情報を共有し、安全意識を高めてほしい」と呼び掛けた。

安全講話では、静岡労働局の鈴木誠主任地方産業安全専門官が災害発生事例を紹介し、「建設業の死傷災害は増加傾向。

特に墜落、重機、熱中症、交通災害に注意が必要」と発生状況を説明するとともに、「それぞれの現場の状況に則した取り組みが重要。状況をしっかりと把握し、労働災害防止活動を徹底してほしい」と訴えた。

また、受注者を代表し、静岡県警察学校本館建築の施工を担当した鴻池組が「現場における安全への取り組み」、OS設計工房が「工事監理の立場からみた施工現場の安全対策」を発表した。

開催状況

「建通新聞(9/7)による報道